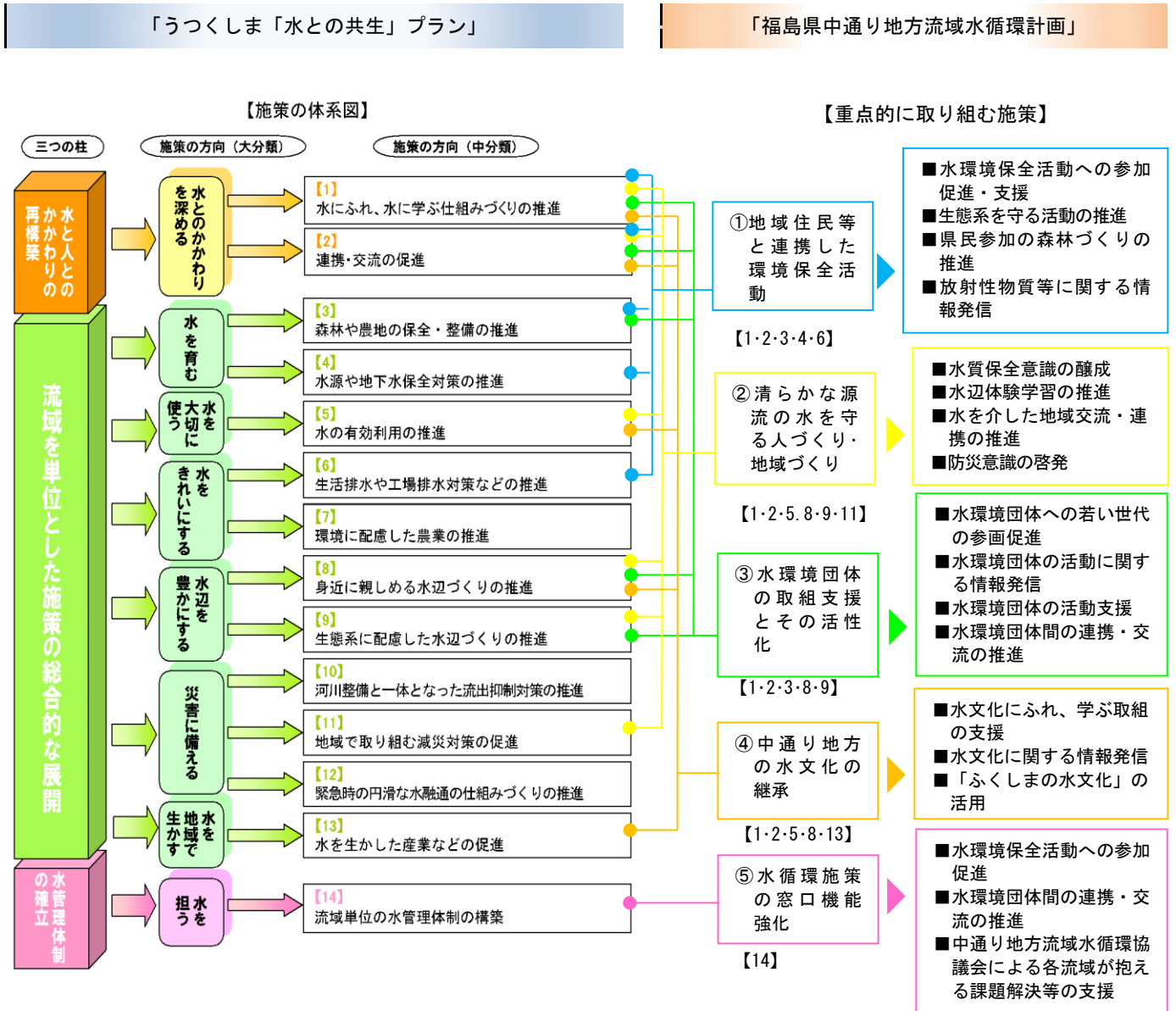


第4章 福島県中通り地方流域水循環計画の重点施策

4 福島県中通り地方流域水循環計画で取り組む施策の体系

共生プランの施策を軸として、「福島県中通り地方流域水循環計画」で重点的に取り組む施策を体系化します。

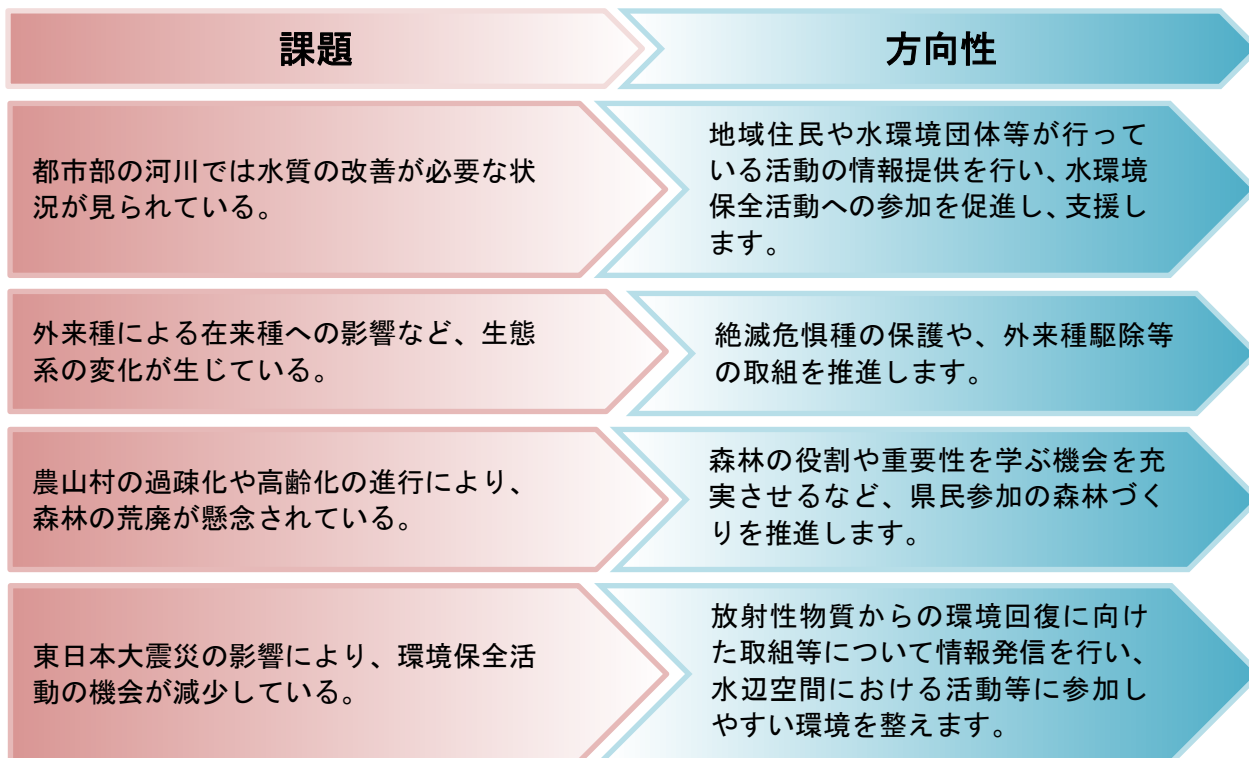


「うつくしま「水との共生」プラン」と「中通り地方流域水循環計画」における施策の関係

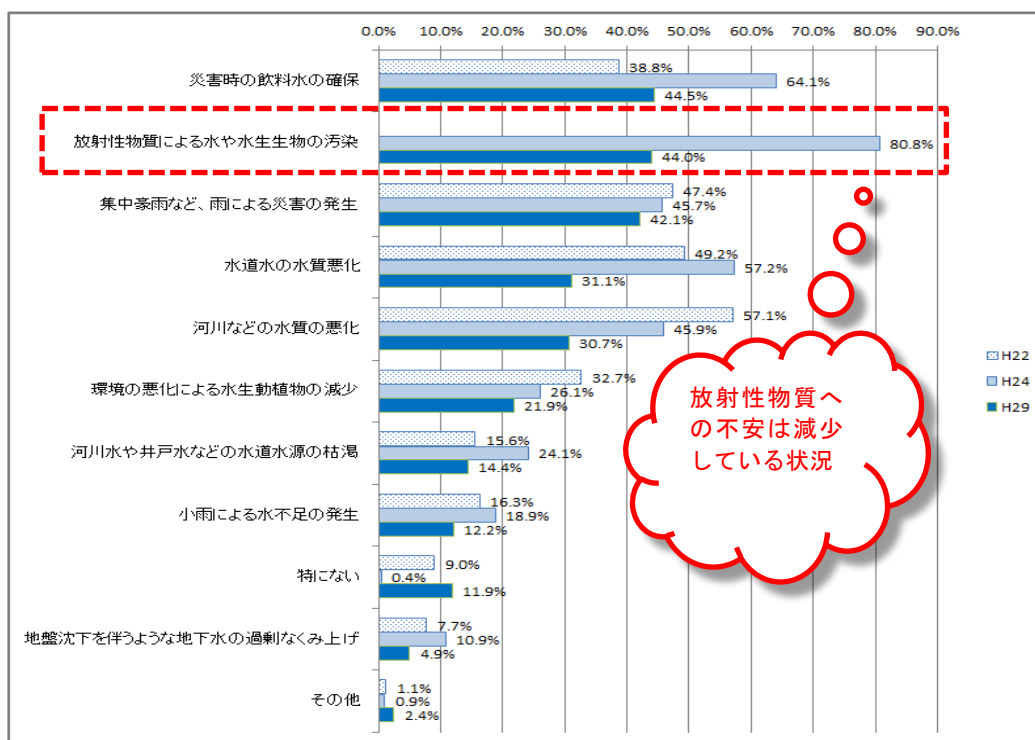
重点施策 1 地域住民等と連携した環境保全活動

主な課題と今後の方向性

中通り地方では、都市部の河川で水質の改善が更に必要な状況が見られるほか、外来種の影響による生態系の変化が進み、農山村における森林の荒廃も懸念されています。このため、各流域で行われている地域住民や水環境団体等の環境保全活動への参加を促進、支援します。



「水についての不安や心配（中通り地方）」〔平成29年度県政世論調査（福島県）〕



具体的な取組

地域住民や水環境団体が行っている水環境活動への参加促進や活動支援、放射性物質からの環境回復に向けた取組等について情報発信などを行い、環境保全活動の輪を広げます。

水環境保全活動への参加促進・支援

福島県HP等を活用して、各流域の水環境に関する活動紹介や参加者募集、水辺空間や水に関するイベントなどの情報を発信します。



福島県HPによる情報発信「水環境ニュース」

生態系を守る活動の推進

地域住民や水環境団体が行っている外来種駆除などの生態系を守る活動を推進します。



水環境団体の外来種駆除活動

県民参加の森林づくりの推進

ボランティアによる指導者「もりの案内人」を活用し、自然観察会や野外活動などを通して、森林づくりの大切さを学ぶ機会を充実させます。



福島県もりの案内人

放射性物質等に関する情報発信

水辺空間の利用を控えている県民に配慮し、福島県HP等を活用して環境放射線モニタリング結果や環境回復に向けた取組等について情報提供を行います。



福島県HPによる放射線モニタリング状況

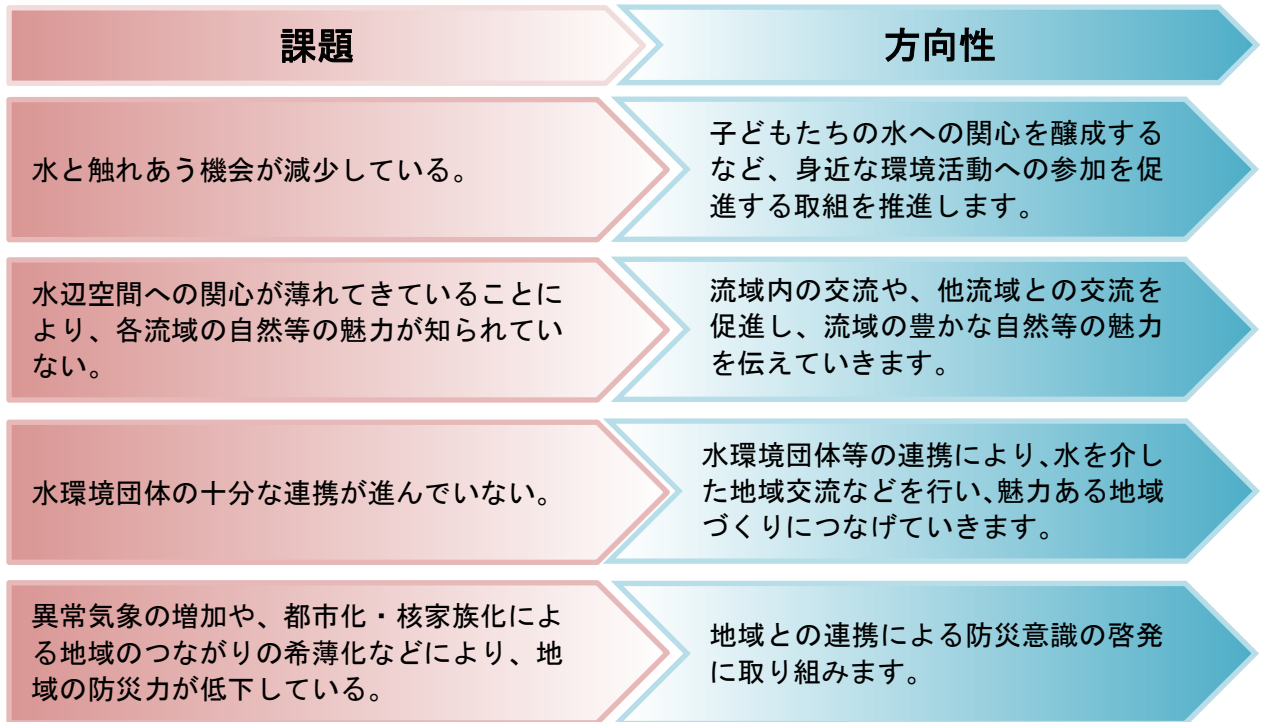
「地域住民等と連携した環境保全活動」に関わる取組と実施主体の関係

重点的に取り組む施策		実施主体						
		産	学	民		行政		
		事業者	研究機関・教育	市民団体	住民	市町村	国	県
①地域住民等と連携した環境保全活動	水環境保全活動への参加促進・支援	◎	◎	◎	◎	○	○	◎
	生態系を守る活動の推進	◎	◎	◎	◎	○	○	◎
	県民参加の森林づくりの推進	◎	◎	◎	◎	○	○	◎
	放射性物質等に関する情報発信		◎			◎	◎	◎

※◎は中心となって取り組む主体、○は関係して取り組む主体

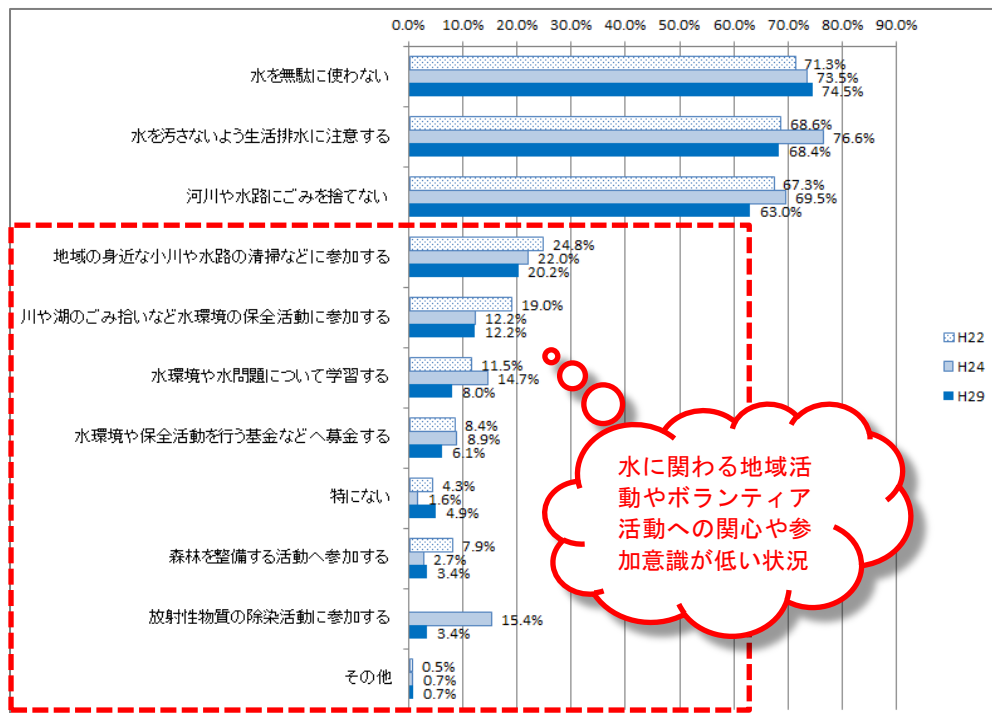
主な課題と今後の方向性

中通り地方の多くの流域では、人々が身近な川に関心を持たなくなり、水とふれあう機会が減少するなど、人と水との距離が遠ざかっています。このため、子どもたちに水の大切さや流域の魅力を伝えるとともに、水を介した地域交流を促進します。



「水を利用していくために取り組みたいこと（中通り地方）」

【平成 29 年度県政世論調査（福島県）】



具体的な取組

子どもたちへの環境教育を充実させるとともに、地域住民や水環境団体等による連携や交流を促進するなど、健全な水循環を支える人づくり、地域づくりを支援します。

水質保全意識の醸成

水生生物による水質調査を行う「せせらぎスクール」や、「水の作文コンクール」などを通じて、子どもたちの水に対する意識を高めていきます。



せせらぎスクール

水辺体験学習の推進

「水との共生出前講座」や「川の案内人」などを活用し、河川活動や小・中・義務教育学校の総合的な学習の時間の場において、水に学ぶ取組を支援します。



水との共生出前講座

水を介した地域交流・連携の推進

各流域の地域住民や水環境団体等による上下流や地域、流域間の連携・交流を促進します。



阿武隈川サミット実行委員会による阿武隈川源流探検

防災意識の啓発

関係機関が連携した減災対策に向けた取組や、地域住民の防災意識の向上の取組などを推進します。



豪雨から子どもの命を守る出前講座

「清らかな源流の水を守る人づくり・地域づくり」に関わる取組と実施主体の関係

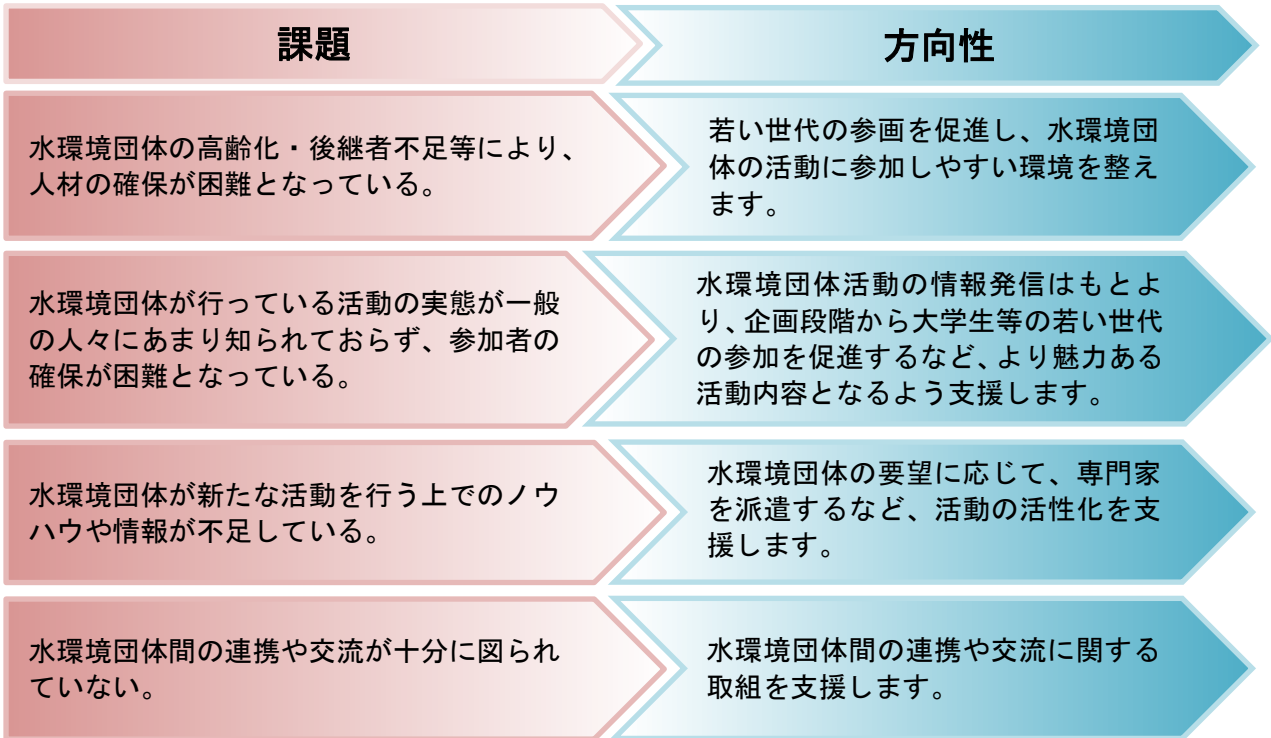
重点的に取り組む施策		実施主体						
		産	学	民		行政		
		事業者	研究機関・教育	市民団体	住民	市町村	国	県
② 清らかな源流の水を守る人づくり・地域づくり	水質保全意識の醸成	◎	◎	◎	◎	○	○	◎
	水辺体験学習の推進	◎	◎	◎	◎	○	○	◎
	水を介した地域交流・連携の推進	◎	○	◎	◎	○	○	◎
	防災意識の啓発	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎

※◎は中心となって取り組む主体、○は関係して取り組む主体

水環境団体の取組支援とその活性化 ～まちと豊かな水環境の共生～

主な課題と今後の方向性

中通り地方の各流域では、水環境団体による水辺を豊かにする様々な活動が行われていますが、東日本大震災の影響による活動の縮小や停滞、構成員の高齢化や後継者不足などの課題を抱えています。このため、水環境団体の活動を広く知ってもらい、団体間の連携や交流を促進させることにより、人材の確保や活動の活性化につなげていきます。



「県内の水環境団体からの主な意見」〔県から水環境団体に対する聞き取り結果より〕

年月日	相手方	活動状況・意見等	団体等が抱える課題
		福島市荒川資料館を無料で使用させてもらっている。一方、福島市から依頼で荒川の説明をもちつたれつとの関係にある。川国連事務所には、清掃活動への参加や河川に関する情報提供を受けられる団体もいるので、あまり押し付けがましい感じで調整できると良い。取材では、荒川の水質日本一は、当協議会の清掃活動だけでは無くなりつつあることを伝えている。	●参加者の確保 情報発信がうまくPRできていない。PRなどのお金も必要。
		川工事事務所から住居内へ活動資金をもらっている。活動資金は少ないが、活動の継続に必要。活動の継続は、例えはそれと、川が枯れない。	●高齢化・人材不足 河川の活動は盛んな時期はあったが、高齢の人が多くなっているのが同じ。若い人をそだてるのが重要と考える。
		震災後は、放射性物質の検査は、仕事、土日は子供の面倒をみる。ボランティア活動の協力は、村の協力があるが、DNA検査はできない。	●高齢化・人材不足 8名の女性会での活動。震災後の放射性物質のアンケート調査など、要望が多く対応できなくなってきた。 ●水とのふれあいの喪失 -川に入ったことがない、虫にさわれないという子供がいる。なんとかしてあげたい。
		地域ネットワークは原発災害で停滞していた。組織内各団体の連携はほぼ無い状況。流域が県南・県中・いわき方面に跨がり、連携がとりにくい。当時は地方振興局が主導で団体で活動していた。 メンバーも高齢化してきた。団体の活動はボランティア精神で活動している。活動の継続性を考えると、長期的に取り組める人を各団体が自らで探す機会を多く、担い手がいない。 加齢は、活動成果がその都度出ないと、一度はやる気になりがちな。自分の後継者を認めるには、川で遊ぶことで、川を守る人になっては川で遊ぶ事を禁止している。川で遊ぶ機会を作りたい。 により、地域の祭りや正月行事が消えていく。地域の伝統を流域として取り組む方法もあるのではな	●高齢化・人材不足 団体のメンバーも高齢化してきている。団体活動はボランティア精神に依るので担い手不足。 ●地域の祭りや正月行事が消えていく傾向にある。 ●団体間の連携不足 荒川は流域が県南・県中と跨がりにくい。当時は地方振興局が主導で活動していた。 ●活動資金の不足 ●経費を自腹で賄う場面も多いため、活動成果がその都度出ないという意見も。
		地元で自主的に河川清掃を行っていたツクイさんの活動を継続していく団体として、平成14年に設立され活動を開始。会員は、10名程度の常連と、イベント時に20名程度の方が参加する規模である。	●水辺空間の魅力・関心の不足 ●地域の人のどう関心を持ってもらうかが課題。

川に入ったことがないという子どもがいる。何とかしてあげたい。

活動に関する情報不足

高齢化・人材不足

団体間の連携不足

参加者の確保

具体的な取組

若い世代の参画を促すなど、水環境団体の人材確保や情報発信の支援を行うとともに、水環境団体間の連携・交流の取組を支援し、活動の活性化を図ります。

水環境団体への若い世代の参画促進

大学等と連携して若い世代の参画を促進するなど、水環境団体の活動に興味を持ってもらい、活動に参加しやすい環境を整えます。



大学生参加による植林活動

水環境団体の活動に関する情報発信

福島県 HP や若者たちの情報発信ツールなども活用し、水環境団体の活動を紹介します。



若者の SNS 等の活用

水環境団体の活動支援

勉強会や講演会等に講師を派遣する「水との共生出前講座」などを活用し、水環境団体の活動を支援します。



水との共生出前講座

水環境団体間の連携・交流の推進

福島県水環境団体交流会の活動を支援するなど、水環境団体間の連携や交流の機会を充実させます。



福島県水環境団体交流会

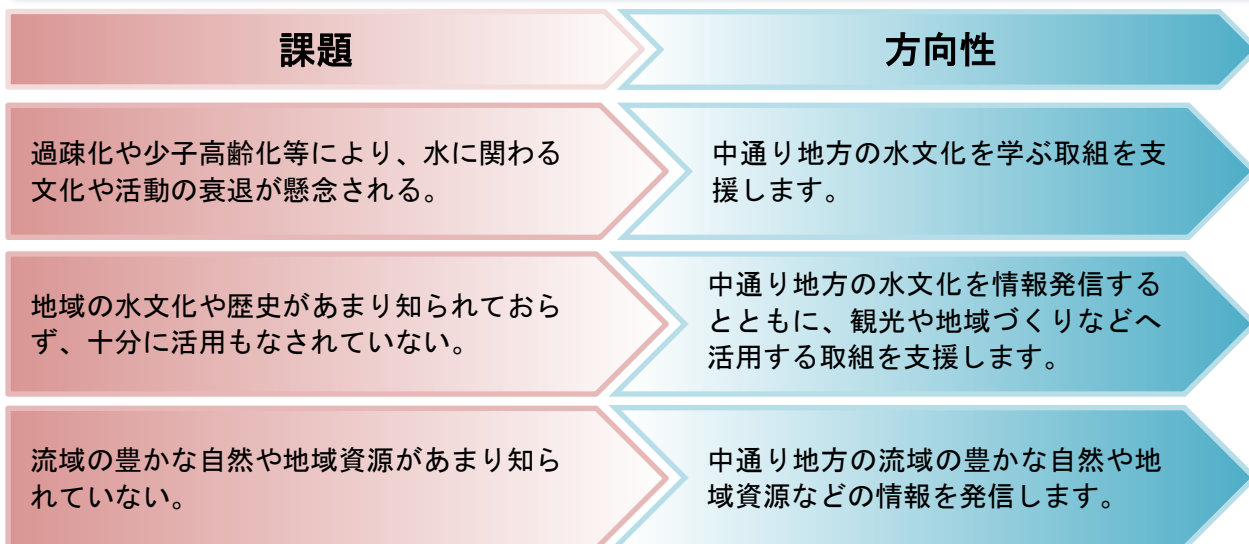
「水環境団体の取組支援とその活性化」に関わる取組と実施主体の関係

重点的に取り組む施策		実施主体						
		産	学	民		行政		
		事業者	研究・教育・機関	市民団体	住民	市町村	国	県
③水環境団体の取組支援とその活性化 ～まちと豊かな水環境の共生～	水環境団体への若い世代の参画促進	○	◎	◎	◎	○	○	◎
	水環境団体の活動に関する情報発信	○	○	◎	◎	○	○	◎
	水環境団体の活動支援	○	○	◎	◎	○	○	◎
	水環境団体間の連携・交流の推進	◎	○	◎	◎	○	○	◎

※◎は中心となって取り組む主体、○は関係して取り組む主体

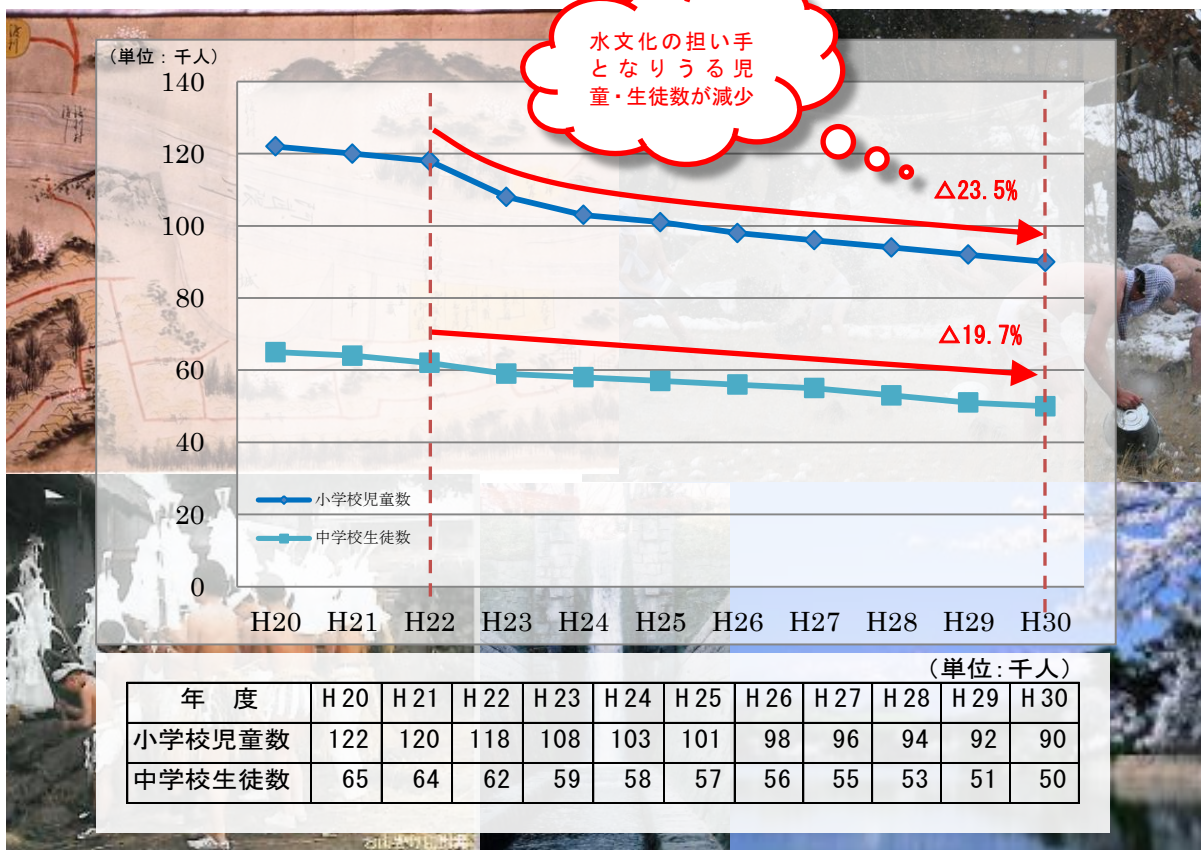
主な課題と今後の方向性

中通り地方では、水に関わる祭事や伝統工芸などが各地に残されておりますが、これらの「水文化」は、中山間地域の過疎化や少子高齢化などにより、伝統文化の担い手が減少し、衰退が懸念されています。地域の水文化をもう一度見つめ直し、流域の魅力として十分に活用しながら、将来に継承していく取組を支援します。



「県内の小学校児童数、中学校生徒数の推移」

〔福島県企画調整部統計課編「平成30年度学校基本調査結果速報」から作成〕



具体的な取組

水文化を学ぶ取組への支援や水文化に関する情報発信を行うとともに、観光や地域づくりなどへ活用する取組を支援します。

水文化にふれ、学ぶ取組の支援

学校や地域における水文化を学ぶ取組や、地域の水文化を学びながら行う水環境活動を支援します。



水について学ぶ子どもたち

水文化に関する情報発信

福島県 HP や各種イベント等において、各地の水文化に関する情報を発信します。



金沢の羽山ごもり（福島市）

「ふくしまの水文化」の活用

平成22年度に選定した「ふくしまの水文化」について、観光や地域づくりなどへ活用する取組を支援します。

“特に後世に伝えたいふくしまの水文化” 一覧

テーマ	種類	水文化
生活の中の水文化	祭事・信仰等	金沢の羽山ごもり（福島市）、岡山の水かけ祭（福島市）、遠藤ヶ滝（大玉村）、横沢の麓山まつり（郡山市）、西方水かけまつり（水祝い）（三春町）
	伝説・伝承等	半田沼の赤べこ伝説（桑折町）、山ノ井清水（郡山市）
	湧水・清水	岩井の清水（本宮市）、六郷清水（田村市）、小和清水（石川町）
	渡し	鮎滝渡船場跡（福島市）
水に関わる産業	伝統工芸	上川崎手漉き和紙（二本松市）
	舟運	阿武隈川の舟運（福島河岸、伏黒河岸寄蔵を含む）（福島市、伊達市 他）
	治水施設	荒川の歴史的治水・砂防施設（福島市）
	利水施設	西根堰（福島市）、三ツ森貯水池と長井坂円形分水装置（大玉村）、安積疏水関連施設（麓山の飛瀑、十六橋水門を含む）（郡山市）
	産業施設	沼上発電所、竹ノ内発電所、丸守発電所（郡山市）、谷津田川流域水車跡群（白河市）
	生活関連施設	南湖公園（白河市）

「中通り地方の水文化の継承」に関わる取組と実施主体の関係

重点的に取り組む施策		実施主体						
		産	学	民		行政		
		事業者	研究機関	教育・	市民団体	住民	市町村	国
④中通り地方の水文化の継承	水文化にふれ、学ぶ取組の支援	◎	◎	◎	◎	○	○	◎
	水文化に関する情報発信	◎	◎	◎	◎	○	○	◎
	「ふくしまの水文化」の活用	◎	○	◎	○	◎	◎	◎

※◎は中心となって取り組む主体、○は関係して取り組む主体

主な課題と今後の方向性

中通り地方の各流域が抱える水環境の問題は多様化、複雑化しており、流域に関わる様々な主体が課題を共有し、連携しながら一緒に取り組んで行くことが求められています。そのため、関係団体が直面している課題について知恵を出し合いながら解決していくため、中通り地方流域水循環協議会が総合調整機能を果たします。

課題

方向性

東日本大震災後、地域住民や水環境団体等の取組が縮小している。

地域住民や水環境団体等が行っている活動の情報提供を行い、その活動などへの参加を促進します。

地域住民、活動団体、行政との間で、活動の連携が図られず、複雑な問題に対応できない。

各流域に関係する様々な主体が連携し、情報共有を図りながら、問題解決できるよう支援します。

水循環に関する取組がそれぞれの団体等で行われているが、抱えている課題や悩みを、どこに相談したら良いかわからない。

水環境団体や各関係機関が実施する水循環施策に関する総合調整機能を強化します。

Key Person



逢瀬川の環境保全活動を支える
はせがわ きよし
長谷川 潔 さん

逢瀬川ふれあい通り実行委員会代表

略歴 郡山市在住。昭和31年生まれ。逢瀬川ふれあい通り実行委員会の会長として、水辺に子供たちの笑顔を取り戻すため、河川に関するイベントや逢瀬川でのごみ退治などの活動に尽力されている。

今最も苦勞していることは何ですか？

資金と若い人の参加です。

活動の方針としては、あまり背伸びをせずに、長く続けられる活動としているので、年間の資金は多くはいらないのですが、それでも市民に河川環境に関心を持ってもらうという趣旨から、それなりのイベントを行う必要があり、そのための年間資金は必要となります。補助金は、新規の立ち上げ事業や派手な事業などには適応しているものはありますが、継続的な地道な事業には合うものがなく、毎回苦勞をしています。

15年以上続けてくると、会員の高齢化が進んでおり、活動を続けられない人も出てきます。やはり若い世代の参加がこれからも活動を続けていくためには必要です。

他団体や関係機関と協力していくために必要なことは？

活動している団体はそれぞれの問題意識で活動しています。そのため、自分たちの活動の中で完結してしまい、他の団体と協力する意識が低いと思います。しかし、一つの団体ではどうしても限界があることから、連携していくことはとても重要になります。

それぞれの団体が活動を交流する場をつくることは、重要であるし、そこで各団体の気づきの場としても有意義だと思います。

今後の活動の抱負をお聞かせください。

様々な取り組みをして、やりがいを感じるのは子どもたちの笑顔が見られた時です。本来、子どもたちが水環境とかかわることは、子どもたちの情操を養い、知育にも良いとの研究もあります。そのため、子供たちのために少しでも健全な水環境を取り戻し、子供たちが心置きなく河川等で遊べる環境になる一助になればと考えています。

具体的な取組

中通り地方流域水循環協議会が、様々な主体の連携や情報共有を図りながら、水循環に関する取組がより効果的なものとなるよう支援します。

水環境保全活動への参加促進

福島県 HP 等を活用し、水環境に関する活動紹介や参加者募集、水辺空間や水に関するイベント等の情報を発信します。



福島県 HP による情報発信「水に関するイベント情報」

水環境団体間の連携・交流の推進

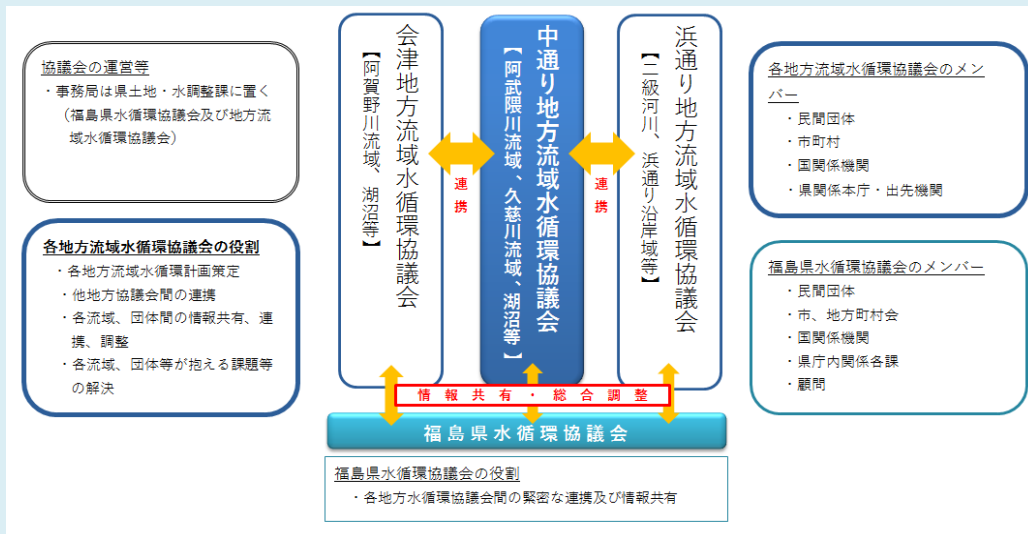
福島県水環境団体交流会の活動を支援するなど、水環境団体間の連携や交流の機会を充実させます。



福島県水環境団体交流会

中通り地方流域水循環協議会による各流域が抱える課題解決等の支援

様々な主体が情報を共有し、その活動がより効果的なものとなるよう、中通り地方流域水循環協議会が総合調整機能を果たします。



「水循環施策の窓口機能強化」に関わる取組と実施主体の関係

重点的に取り組む施策	実施主体						
	産	学	民		行政		
	事業者	研究機関	市民団体	住民	市町村	国	県
⑤水循環施策の窓口機能強化	水環境保全活動への参加促進	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	水環境団体間の連携・交流の推進	○	○	◎	◎	◎	○
	中通り地方流域水循環協議会による各流域が抱える課題解決等の支援	◎	◎	◎	◎	◎	◎

※◎は中心となって取り組む主体、○は関係して取り組む主体